

イベントレポート

美術館お正月開館イベントを実施!

2014年から始めたお正月開館イベントも今年で3回目!
1月2日(土)、3日(日)は雪中に春の訪れを待つ動物たちの姿を描いた日本美術の紹介に加え、夢の演奏会、けん玉やコマ、紋切りあそびなどを体験できるお正月伝統遊びコーナーのほか、運試しやアート年賀状コーナーなど、盛り沢山のイベントで1年をスタートしました。
来年のお正月開館イベントもぜひご期待ください!



館内イベント
平成28年度 県立美術館メンバーズクラブ 入会受付中!

山口県の県立美術館2館の展覧会等を通じて、美術に広く親しんで頂き、地域文化の向上に寄与することを目的として、山口県立美術館、山口県立秋美術館・浦上記念館では、2館共通のメンバーズクラブ会員を募集します。皆さまの入会をお待ちしております。
*会員特典・入会方法などの詳細については、当館HPまたは会員募集チラシをご覧ください。

- 会員特典** 2館の企画展(特別展)を3回まで無料、4回目以降は半額。コレクション展(普通展示)も3回まで無料、4回目以降は100円でご覧いただけます。
- 入会金** 一般: 2,000円、学生: 1,700円、シニア(70歳以上): 1,400円
- 募集期間** 平成28年3月18日(金)～7月31日(日)
- 有効期限** 平成29年3月31日(金)まで

美術館カフェ “La Plume Bleue (ラ プリュム ブルー)”

ラ プリュム ブルーでは、明るく開放的な空間で四季折々の自然やアートを近くに感じることが出来ます。
丁寧な作り上げたケーキや種類豊富な飲み物をはじめ、限定のランチもご用意しています。厳選した紅茶やスペシャルティコーヒーの香りに包まれながら美術鑑賞の余韻に浸ってみてはいかがでしょうか。
友達同士のお茶会や散歩途中の休憩、読書など様々なシーンで気軽にご利用ください。ケーキやドリンクはテイクアウトも可能です。



2016 - 2017 schedule

	展示室 A	展示室 B	展示室 C	展示室 D	展示室 E	展示室 F
4	4/17 (日) まで「2015年度 コレクション展」			特別展 3/18 (金) - 5/8 (日) リバプール国立美術館所蔵 英国の夢 ラファエル前派展 ファーストマンデー 4/4、5/2		
5	4/19 (火) - 7/3 (日) 美術にみる女性像	4/19 (火) - 7/3 (日) 田中稔之の世界	4/19 (火) - 5/22 (日) 花と女が出会うとき	全館休館 (5/23 - 25)		
6			5/26 (木) - 7/3 (日) 山水画 - 仮想と現実のはざま	特別展 5/26 (木) - 7/3 (日) 山の日制定記念 遥かなる山 - 発見された風景美 ファーストマンデー 6/6		
7			7/12 (火) - 8/14 (日) 恋も神様も伝説も - 物語絵の世界	全館休館 (7/4 - 11)		
8	7/12 (火) - 10/13 (木) 〈おんな〉のイメージ - 戦後日本写真に見る女性	7/12 (火) - 10/13 (木) 抽象画のたのしみ	8/16 (火) - 9/25 (日) 江戸から明治へ - 19世紀の日本絵画	7/12 (火) - 8/28 (日) シベリアの香月泰男	全館休館 (9/2 - 12)	
9			9/27 (火) - 10/30 (日) ロマンと前衛 - 20世紀前半の日本画	9/23 (金) - 10/10 (月) 第70回山口県美術展覧会 ファーストマンデー 10/3		
10			11/1 (火) - 12/4 (日) 雪舟	全館休館 (10/14 - 17)		
11	10/18 (火) - 2017/1/22 (日)	10/18 (火) - 2017/1/22 (日)	12/6 (火) - 2017/1/22 (日) 西・禽・トリ	特別展 11/7 (月) - 12/18 (日) [予定] ベル・エボックの画家たち - アンティミストの輝き - (仮称) ファーストマンデー 11/7、12/5		
12	山口県立美術館 静物部	香月泰男と宮崎進	2/28 (火) - 4/9 (日) 野田神社所蔵 毛利家の能面と能装束	全館休館 (12/19 - 1/1)		
1				全館休館 (1/9 - 20)		
2	1/24 (火) - 4/9 (日) 福田勝治の「イタリヤ紀行」 - Travel in Italy -	1/24 (火) - 4/9 (日) シベリア・シリーズ		特別展 1/21 (土) - 3/26 (日) 日伊国交樹立150周年記念 世界遺産 ポンペイの壁画展 ファーストマンデー 2/6、3/6		
3						

Information
 ■休館日 月曜日(祝日・休日の場合は開館)、年末年始(1/2から開館)
 ※ただし、ファーストマンデー 特別展開催中の第1月曜日は開館。
 展示替期間 2016年5月23日(月)～25日(水)、7月4日(月)～11日(月)、9月2日(金)～12日(月)、10月14日(金)～17日(月)、12月19日(月)～2017年1月1日(日)、1月9日(月)～20日(金)
 ■開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)
 ■料金 コレクション展: 一般300(240)円 学生200(160)円
 ※ ()内は20名以上の団体料金。
 ※18歳以下と70歳以上および高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在籍する生徒は無料。
 ※障害者手帳等をご持参の方とその介護の方1名は無料。
 特別展: 別途定めた料金

f 美術館情報をフェイスブックで紹介しています



山口県立美術館
 Yamaguchi Prefectural Art Museum
 〒753-0089 山口県山口市亀山町3-1
 TEL: 083-925-7788 FAX: 083-925-7790
 http://www.yma-web.jp/

Yamaguchi Prefectural Art Museum

125

Contents
 コレクション展
 特別展
 リバプール国立美術館所蔵 英国の夢 ラファエル前派展
 山の日制定記念 遥かなる山 - 発見された風景美
 日伊国交樹立150周年記念 世界遺産 ポンペイの壁画展
 イベントレポート
 館内インフォメーション
 年間スケジュール



中村貞以 《梅妃》 山口県立美術館蔵

山口県立美術館ニュース「天花」

天花
TENGE

Collection

コレクション展

花と女が出会うとき
4/19 日 - 5/22 日

表紙作品解説

中村貞以 《梅妃》 大正13(1924)年 紙本着色 山口県立美術館蔵

実家のそばに古い呉服屋さんがありました。夜遅く、足早に前を通ると、ふと甘い香りがよぎるのです。見上げれば特段強い光源もないのに、庭の白梅がぼおっと闇に浮かんでいて、しんとした空気のなか、そうだ、もう梅の頃なんだな、とぼんやり思う。この作品をみていると、そんな春宵のおぼろげな情景へと、突如迷い込んだ心地になります。

タイトルにもある梅妃は、中国の伝記に登場する、梅をこよなく愛したという女性です。一輪の梅花をのせた細い指先、透ける白肌や、団扇から覗く口元は、品がありながらも蠱惑的で、玄宗皇帝の寵愛を楊貴妃と争った美女というの、頷ける風情です。

作者の中村貞以(1900-82)は、幼少期手指に火傷を負ったため、絵筆を両手ではさむ描法を用いながら、やがて清雅な美人画の名手として画壇に名を馳せました。独自の描線にこだわりを持っており、本作では繊細な輪郭線の上から、さらに微細な線を垂直に並べ連ね、かたちが淡い影をまとうように描いています。また柔らかな色使いに加え、梅の花弁や襟袖には白銀の箔を施して、ほのかな光が内側から放たれているようにも感じられます。

描かれたテーマと装飾的な技法が溶け合う、大正期らしい幻想的な画面。そこで静かに微笑む梅妃は、夢とも現実ともつかない早春の記憶へと、そっと見る者を誘うのです。

(専門学芸員 岡本麻美)

山口県立美術館ニュース「天花」第125号 平成28年3月発行 編集 指定管理者サントリーホールディングス株式会社 発行 山口県立美術館 印刷 昭和社写真印刷株式会社

特別展

tysテレビ山口開局45周年記念
リバプール国立美術館所蔵
英国の夢 ラファエル前派展

Pre-Raphaelite and Romantic Painting from National Museums Liverpool

2016年 3月18日金 - 5月8日日



ジョン・エヴァレット・ミレイ
《いにしへの夢―浅瀬を渡るイサンブラス卿》
1856-57年 油彩・カンヴァス
©Courtesy National Museums Liverpool, Lady Lever Art Gallery

「ラファエル前派」とは？

1848年、ジョン・エヴァレット・ミレイ、ダンテ・ゲイブリエル・ロッセッティ、ウィリアム・ホルマン・ハントを中心に結成された芸術家グループ。「自然に忠実に」という理念を掲げて、ルネサンス期の巨匠ラファエロ・サンティ（1483-1520年）以前の芸術に立ち返ることを目指しました。グループとしての活動は数年間の短いものでしたが、産業革命に対する反感と中世への憧憬を色濃く映したラファエル前派の創作活動は、19世紀後半のイギリス美術に決定的な影響を及ぼしました。

イギリスが世界に誇る、ヴィクトリア朝絵画の傑作が山口に集結！

産業革命をいち早く成し遂げ、世界経済の覇者として強大な地位を誇ったヴィクトリア女王治世下（1837-1901年）のイギリス。急速な工業化と都市化が進展する「世界の工場」で、若い芸術家たちによる新しい芸術が生まれます。聖書やギリシャ神話、アーサー王と円卓の騎士たちの物語、中世の伝承からシェイクスピアまで、「ラファエル前派」として知られる彼らが描いたのは、妖しくも美しい物語。愛と詩、そしてロマンスに溢れた優雅な絵画世界は、ヴィクトリア朝のイギリス美術特有の魅力といえます。

このたびの展覧会では、英国絵画の傑作を所蔵する美術館として世界的に知られるリバプール国立美術館のコレクションから、ラファエル前派をはじめとする19世紀後半のイギリス絵画65点をご紹介します。珠玉の作品をおとして、ヴィクトリア朝時代の英国に花開いた絢爛たる夢と幻想の世界を心ゆくまでご堪能ください。

- 開館時間 9：00～17：00（入館は16：30まで）
- 休館日 月曜日 ※ただし3月21日、**ファーストマンデー** 4月4日および5月2日は開館
- 観覧料 一般 1,300（1,100）円 シニア 1,100（900）円 学生 1,100（900）円
◎コレクション展セット券（当日のみ）一般1,400（1,200）円 学生1,200（1,000）円

【主催】山口県立美術館、毎日新聞社、tysテレビ山口
【後援】プリティッシュ・カウンシル 【協力】KLMオランダ航空、日本航空
【特別協力】エフエム山口 【特別協賛】エルクホームズ株式会社

特別展

山の日 制定記念
遥かなる山―発見された風景美

2016年 5月26日木 - 7月3日日 **ファーストマンデー** 6月6日（月）は開館



丸山晩霞《夏の白馬岳》 大正11年（1922）頃
丸山晩霞記念館蔵

今年の8月11日、国民の休日「山の日」の施行に合わせて、山岳風景画の展覧会を開催いたします。明治から昭和前期にかけて描かれた洋画・日本画・水彩画・版画など約120点を紹介するものです。

明治後期、西欧のリアリズムの手法で描かれた風景画が登場する頃、ほとんど未知の世界だった日本アルプスの壮大な風景が、登山家たちによって発見され始めました。画家の中には、実際に登山を行い、そこで目にする新たな風景美を画面に表そうと試みる者も現れました。大下藤次郎、丸山晩霞、吉田博、茨木猪之吉、中村清太郎、石井鶴三、足立源一郎、山元春拳、石崎光瑠、武井真澄、玉井敬泉といった画家がそうです。彼らは吉田を除き全員が明治38年（1905）創立の「日本山岳会（創立当時の名称は山岳会）」の会員でもありました。

日本山岳会にはこの他に竹内栖鳳、平福百穂、寺崎広業といった画家や、島崎藤村、田山花袋などの文学者、牧野富太郎、柳田国男などの学者たちも会員となっています。新しく見出され



大下藤次郎《西山峰》 明治42年（1909）
島根県立石見美術館蔵



大久保作次郎《山へ》 昭和15年（1940）
千葉県立美術館蔵



吉田博《颯山》 大正7年（1918）？
個人蔵



中村清太郎《初夏の槍ヶ岳》
公益社団法人 日本山岳会蔵



菊池華秋《雪嶺》 昭和13年（1938）
島根県立石見美術館蔵

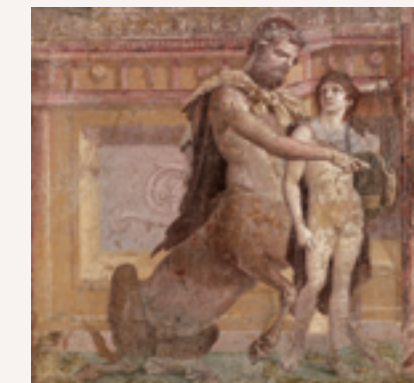
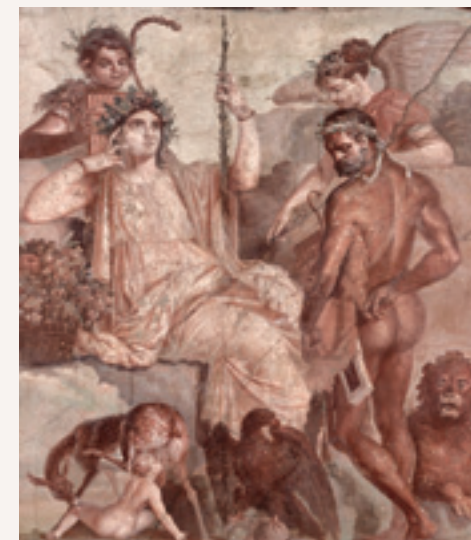
特別展

日伊国交樹立150周年記念
世界遺産 ポンペイの壁画展

La Pittura Parietale Romana a Pompei

2017年 1月21日土 - 3月26日日

ファーストマンデー 2月6日（月）、3月6日（月）は開館



《ケイロンによるアキレスの教育》
後1世紀 ナポリ国立考古学博物館蔵
©ARCHIVIO DELL'ARTE - Luciano Pedicini / fotografo

《赤ん坊のテレフォスを発見するヘラクレス》
後1世紀 ナポリ国立考古学博物館蔵
©ARCHIVIO DELL'ARTE - Luciano Pedicini / fotografo

ポンペイ壁画の決定版

紀元79年、ヴェスヴィオ火山の噴火によって消失した町ポンペイ。未曾有の大惨事によって、時代が瞬時に閉じ込められたポンペイの町は、18世紀に発見されて以降、古代から現代にいたる西洋文明を考えるうえで、何よりも重要な研究材料となっています。

これまでポンペイをテーマにした展覧会は、主に考古学の観点から、希少価値のある出土品を中心に構成されてきましたが、本展覧会では、古代ローマの優れた芸術文化の象徴である壁画に焦点をあててご紹介します。展示手法にも趣向を凝らし、従来の断片的もしくは平面での展示ではなく、当時の室内を飾ったすがたそのままに、一連の空間装飾として立体的に再現展示し、古代ローマの人々の美意識を追究できる内容となっています。

日本における古代ローマ研究の第一人者で、イタリアでの発掘に長年携わってきた青柳正規・東京大学名誉教授の監修のもと、ナポリ国立考古学博物館、ポンペイ監督局の協力により、ポンペイの壁画を代表する作品が一堂に会します。出品作品には、本邦初公開のものに加え、イタリア国外に初めて持ち出される大変貴重な作品も含まれており、まさにポンペイ壁画の決定版といえる展覧会です。



《テセウスのミノタウロス退治》
後1世紀 ナポリ国立考古学博物館蔵
©ARCHIVIO DELL'ARTE - Luciano Pedicini / fotografo